



▲「マルシェ」ゾーン

社名ロゴが輝くエントランスから、多様な要素が交じり合う市場をイメージしたマルシェゾーンが広がる

いまどき オフィス探訪

1日の大半を過ごすオフィス。せっかくならば、働きやすい環境を整えたいところ。いまどきのオフィスを訪ね、これからのオフィス環境のあり方を探ります。

コミュニケーションの活性化を図る 1人ひとりが 主役になれるオフィス

株式会社ヴィス

- 所在地 東京都港区東新橋1-9-1
- 業種 ワークデザイン
- 従業員 約160名（東京本社）



▲「テラス」ゾーン

打合せに適した4人掛けのテーブル席や、個人が集中して作業するためのボックス等、さまざまなサイズのブースが並ぶ

▶「アトリエ」ゾーン

床材や壁紙などさまざまな建築素材が取り揃えられている



「ワークデザインプラットフォーム」でオフィスを最適化

同社の主事業は、オフィスのデザインに留まらず、BRAND・DATA・PLACEそれぞれの観点から最適なワークプレイス（働く環境）を導き出し、働く人々のエンゲージメントを高め、企業価値を向上させる「ワークデザイン」である。

その構築のため、同社は「ワークデザインプラットフォーム」と名付けた、働き方を可視化するDXツールを開発・運用している。

これは、同社に蓄積されたデータなどを利用し、顧客企業のオフ

2023年9月にオフィスを移転した株式会社ヴィス。

新しいオフィスのコンセプトは、
「VISTA（未来への展望）」と、
「CONTEXT（ともに編む）」を
組み合わせた造語で、新しく体験
する「なにか」とこれから出会う
「誰か」との未来を編むために、
「社員それぞれが主役になれる場
所」という想いが込められている。

コミュニケーションが生まれる
「タッチポイント」を多く設けた
という同社のオフィスを訪ねた。

「メゾン」ゾーン▶

大型LEDモニターが設置されており、セミナーや国内の拠点を繋いだ社内会議、懇親会等を開催している。イベントごとに最適なレイアウトへの変更可能。自社プロデュースの家具も多数使用されている



▲「シネマ」ゾーン

5つある会議室は映画の世界をコンセプトにしている。この会議室の名称は、映画「時計仕掛けのオレンジ」の監督である『キューブリック』



▲オフィスを回遊する動線に、あえて立ち止まってコミュニケーションを取ることができるスペースを設けている



▲「ステージ」ゾーン

ワークスタイルはゾーンアドレスを採用。毎月チームごとに指定されたゾーンで働くが、あえてゾーンの境界が曖昧になっていることで、隣り合ったチームの人との関わりや会話が生まれる

イス稼働率やコスト、社員の意識等を調査・可視化し、その企業ごとに最適化されたワークプレイスをデザインするDXツールだ。

ワークデザインプラットフォームを活用することで、同社は社員数が1・5倍に増えたにもかかわらず、移転前とほぼ同じ床面積で新オフィスを構築できたという。

さらにフロアは、多様な要素が交じり合う「マルシェ」、さまざまなサイズのブースが並ぶ「テラス」、オフィス用建材を集めた「アトリエ」等の6つにゾーニングされている。

それぞれのゾーンに仕切りはなく、自由に社員や関係者が回遊できるように動線が引かれている。新たなコミュニケーションから、新しいものが生まれることを促進するためだ。

ほかにも、会議室に映画監督の名前が付けられる遊び心や、旧オフィスからの家具の転用率が65%などサステナビリティへの配慮がなされている。

勤務体系が、出社とテレワークを組み合わせたハイブリッド型に向かう昨今、コミュニケーションを活性化するためのヒントに溢れたオフィスである。

